

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500704		
法人名	社会福祉法人 不動産		
事業所名	グループホーム おとぎの国		
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585		
自己評価作成日	平成30年10月 8日	評価結果市町村報告日	平成31年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5-22
訪問調査日	平成30年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の広大な敷地の一角にグループホームは存在する。周囲は整備された庭園があり、南欧風に統一された建物は優雅さと安らぎを与えている。ホームでのケアは、理念にそって、入居者一人一人の個性や好みを把握し、寄り添う姿勢で提供している。機能的に優れ、明るく開放感のある建物内部の造り、自由な面会時間や利用者皆様の表情等に、安心と安堵感を感じられる家族が多く、「私もここにお願したい」と有難い言葉も頂いている。又、花見行事等での外出、子供会の訪問や地元地区行事(運動会、茅の輪くぐり他)等での交流の他、法人主催の夏祭りやバラ祭り・伝承交流事業・GH運営推進会議の皆様等を通じて、知人や地域の皆さんとの繋がりが広がり、この数年維持・交流できている。

設立以来法人全体で地域との交流が行われ、隣接しているバラ園を開放したバラ祭りは地域行事として根付いています。日々の生活は入居者のペースで過ごされており、理念である「笑顔で明るくやさしい介護」が実践されています。職員による食事作りは入居者にも好評で、手作りの漬物や季節の果物等で豊かな彩りが食卓に並んでいます。食事だけでなく、日常生活そのものが入居者と職員とが大家族で営まれていることが実感できます。従来法人本部で行われていたEPA(経済連携協定)による外国人の受入れは、今年度はホームでも受入れが決定しており、その準備の重責を感じ取れました。外国人職員の育成に力を入れて福祉の将来のあり方に貢献するでろう様子が窺えます。入居者がいきいきとしたホームであり続けることを絶やすこと無く地域福祉の核であることに期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、基本方針とグループホーム独自の理念、職員憲章等を念頭におき、サービスを提供している。申し送りや会議時には、理念を基にした振り返りを行い、実践につなげてきている。	毎年4～5月には職員会議のテーマで理念を取り上げ、機会毎に振り返りを行っている。法人理念と基本方針・事業所理念・職員憲章とあるが、管理者は分かりやすく職員へ伝え、ケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会や地区行事(運動会、茅の輪くぐり)等での交流の他、外出先では馴染みの方や子供達が声を掛けて協力して頂けるようになってきている。又、法人主催の夏祭りやバラ祭り等を通じての知人や地域の皆さんとの交流も、この数年格段の拡がりを見せ維持できている。	校区の運動会では入居者が参加できるプログラムもあり、毎年地域の一員として参加している。近隣からの入居も多いことから、入居者も地域行事や祭りへの親しみも深い。年間を通じ地域や子どもたちとの交流も計画・催されており、また法人行事でも地域との交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域(地元)の3地区)にも開放し、回覧も数年前より行ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催し、メンバーは、利用者代表、家族代表、区長、老人会長、民生児童委員、警察駐在員、市役所職員、等で構成している。地元との交流やホームでの日常生活の紹介、事業計画や外部評価内容等も報告し、意見を求めてきている。	運営推進会議は2ヶ月毎の開催を継続し、理念・職員憲章等も記載されている。市役所からの参加もあり、地域と行政を交えての意見交換の場ともなされている。利用者代表また警察駐在員も継続して参加があり、地域全体で支える事業所の姿がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年、市主催の行事等に参加しており、運営推進会議へは、毎回、市役所の長寿支援課からの出席があつている。市の担当者や市社協からの訪問もあり、情報交換等を行いながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃からの報告・連絡等で関係作りに努めており、特に運営推進会議への参加で日常の様子も積極的に伝えている。市主催研修への参加、徘徊模擬訓練への参加・協力等も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは法人全体の方針であり、職員全員が十分に理解している。さらに、法人内外の研修や学習会(身体拘束適正化委員会)に参加し、理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んできている。	従来、法人の身体拘束適正化委員会を基に職員の理解を促していたが、今年からは事業所からも委員会に参加し、研修や学習会を通じ、身体拘束をしないケアの実践に繋げている。現状では特に気になる点は見られず、継続した職員研修や徹底に努めている。	入居者の行動・動き・様子にも目を配っており、帰宅願望等が見られる際にも制限することなく、職員配置で即座の対応が出来ている普段の様子が窺えました。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。職員会議でも勉強会を行い、虐待ゼロに向け全員で取り組んできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に、十分に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。	家族面会もよく見られ、職員も積極的に声を掛け意向の把握に努めている。遠方の家族にも積極的に連絡を入れている。これまで意見箱への投書は無いが、口頭で受けた要望・意見は改善に取り組む体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境・ケアプラン等の改善に活用し反映している。	事業所での職員会議を毎月行っており、業務・ケアについての意見を出し合い、引継ぎ帳や連絡帳を使って徹底している。特に入居者への個別対応は職員からの意見・案も取り入れられ、見直しを重ねている。運営に関しては内容により法人においての検討もされる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させて行くことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、法人での施設内研修会(事例研修発表会)を実施している。県や市主催の研修会やグループホームのブロック間研修会等にも参加し、能力アップに努めて来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のグループホーム等と定期的に講師を招き、問題点や取り組みの方法等を学びながら、サービス向上に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきた。又、本人が不安にならないようにと雰囲気や環境に配慮し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初に限らず、その後の面会時にも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日やその前後に、本人や家族・担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立支援に繋がるのか、楽しく過ごしているのか等を念頭に置きながら、サービスを提供している。又、以前からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に(年4回)写真入りの便りを発送し、面会時にも近況報告等を行い対話に努めている。又、知人宅訪問やお墓参り・病院受診などは出来るかぎり家族支援でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの馴染みの関係が維持されるよう家族の協力を得ながら、お墓参りや知人宅訪問等をお願いしている。又、今年も、以前からの友人や知人、老人会(藤井地区の老人会は定期的な訪問……)等の面会があり、これらの方々には再度の訪問をお願いし、家族にも伝えている。	地域や友人・知人との相互訪問による関係が継続されているが、家族との関わりが薄れない様、協力を得ながら支援している。家族との外泊旅行・外出もよくみられ、墓参りや孫の運動会見学等による外出例もある。地域老人会の面会も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や好みの差はでているが、生活や行動を共にする中で、利用者同士の助け合いや共有の関係が出来るよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向を第一に(困難な場合には、表情や反応から検討した本人の思い・家族としての思い等…)考え支援している。	職員は入居者との日頃の寄り添い・関りを大切にしており、意向を把握している。入居者・職員共に過ごす時間が長く、日々の生活の中から自然と得ることが殆どである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人、前担当ケアマネジャー等からの情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との対話やスタッフ間での確認・観察記録等での情報により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に取り組んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	職員会議等を利用し全職員が利用者それぞれの状況を把握し共有しており、担当職員によりまとめられ、介護計画に反映されている。入居者・家族の意向を聞きながら状況により都度見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診や目立った変化等がある場合には、個人日誌の赤枠の部分に書き加えるなど、本人の体調・状態の変化に応じた対応を行い、プランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の施設には、多種多様のケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々生まれるニーズに対応して、生きがいや喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。	入居前からのかかりつけ医受診を支援するが、現状ほとんどが協力医である。専門医受診の際には家族へも協力を依頼し、緊急時等も家族との状況共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームへの入居時より、重度化された場合の事業所で出来る範囲の対応について説明し理解を得ている。終末期となる時期には、再度家族と話し合いを、医療に関する希望を確認しながら対応している。「可能であれば、終末期もここでお願いしたい……。」と希望される家族もあり、今日まで、8名の方を看取って来ている。	入居時に事業所の対応について説明し理解を得ている。その時を迎えた際には、家族・かかりつけ医と話し合いを重ね、入居者・家族が看取りまで希望された場合はその時の最善を考えた対応を行っている。法人の医療機関もあり、緊急な場合も法人全体で支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署立ち会いでグループホーム単体での避難訓練を行い、その時には、隣り近所にも協力依頼の声かけを行っている。又、法人全体で開催される消防署立ち会いでの避難訓練にも参加し、地元消防団や地域との協力体制の他、運営推進会議でも災害時の対応や協力体制等について検討を行ってきている。	毎年の避難訓練は、消防士立ち合いのもと法人全体で、また事業所単体でも機会を設け行っている。運営推進会議には警察からの参加もあり、地域との連携や協力体制の情報共有し意見をj得る機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けて来ている。	職員は日頃から入居者へ対し、気さくでありながらも一人ひとりに配慮した声かけを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時の食事等でも、本人の思い(判断)で決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、訪問美容(理容)等を利用されている。又、特別な日や外出時の化粧や服装もその人らしい身だしなみ等ができるように相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、相談しながら決めているし、準備や片付けなどを一緒にを行い、食事と一緒に、会話を楽しみながら過ごしている。又、利用者の誕生日会や記念日等特別な日には、皆さんのお好みメニューを準備し、お祝している。	入居者の要望も取り入れ管理栄養士が立てた献立により、職員手作りの食事を提供している。職員も入居者と同じ食事を共にすることで、好みや体調の把握も行っている。年々難しくなってきたが、入居者の出来る範囲でテーブル拭きや茶碗拭きへの参加もある。	ホームらしい食事で食べることの楽しみが伝わってくる食事風景です。食卓には自家製の梅干しやらっきょう・漬け物の数種が並び、若い時の話を交え入居者と職員とで楽しい時間を過ごしている様子が窺えました。早食い予防の目的もあり「笑顔」での食事が奨励され、入居者それぞれの笑顔が印象的でした。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行っている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	以前より口腔ケアを行って来ている。特に、今年(H30年)の4月からは歯科医師の訪問診療を受け、口腔ケアに係る技術的助言・指導のもとに口腔衛生管理を充実させ、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせて、早めの声かけと誘導、介助を行っている。全員の方が、昼間は、トイレでの排泄を維持されている。	入居者それぞれのパターンを把握し、適宜声かけを行っている。現在では自立・声掛け程度から介護が必要な方までそれぞれに応じており、日中は全員トイレでの排泄が維持されている。夜間は時間での声掛け誘導等、個別の状況により対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使った料理と十分な水分補給・日中の運動等で、便秘予防・自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認し、気持ちよく入浴出来るように支援している。入浴中及びその前後には、見守り安全確認と体調管理に、特に注意を払っている。	入居者の希望により午前を基本に午後も対応し、週2回程度の入浴を支援している。部分的にはあるが2人介助が必要な場面も出てきているが、できる範囲のことは自立を妨げない様な見守りを中心とした支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の運動や入浴・活動的に過ごすこと等で夜間安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用、症状の変化等についても話し合い理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意分野があり、それを活用し、日々の生活の中で張りのある毎日を送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	四季折々の外出や祭り等の見学、古里訪問、散歩、茶話会などを行ってきており、ホームの周辺にはバラ園や菜園など散歩や外気浴に適した場所が多い。又、古里訪問や知人宅訪問などは家族の支援でもお願いしている。	年間を通して様々な行事が計画されており、入居者全体での外出も多い。また「外に出たい」と希望が出た際には個別の外出支援も見られ喜ばれている。買い物等で自宅近辺を通る際には思い出話が出ることもある。	計画による外出支援はたいへん多く、近隣から遠方までの工夫が見られます。一方、日常的な外出支援を課題とし、今後、職員の買い物時の同行等に取り組む様子が窺えました。実現に期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便りや贈り物等へのお礼の他、本人の要望があれば、電話をかけ家族等と話をされている。遠方のご家族からの電話等は特に喜ばれ、毎年、年賀状も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けで、二カ所のリビング(居間と食堂)がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りは、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。	中庭を囲む作りの共用空間は、どこにいても職員・入居者の気配を感じる作りであり、明るく開放的である。敷地内・事業所内どこも広々として掃除が行き届いており、季節の花々を眺めながら歩行訓練をする姿も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの部屋が本人と家族の設定であり、使い慣れた馴染みの家具(タンス、テーブル、椅子)の他、仏壇を持ち込まれている居室もある。面会時等にはお茶を飲んだり、アルバムを見たりして過ごされることが多い。	ベッドと洗面台が備え付けられた居室扉は各部屋異なるスタンドグラスが施され落ち着きの中にも明るさ・華やかさがある。居室内の品物は入居時に「できるだけ家と同じような環境になる様に」と家族へ相談し、入居者が心地よく落ち着いて過ごせる空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される人や空いている居間のソファで談話したり休息される方々もおられる。		